

# 定年延長と65歳まで働ける 労働条件の確立を求め 新たな闘う方針を決定!

## 第4回支部代表者会議 (3/30)

動労千葉は、三月三〇日、本部事務所において、第四回支部代表者会議を開催し、二〇〇〇年春闘の中間総括を行うとともに、定年延長一六五才まで働ける労働条件の確立、「シニア協定」を使った組織破壊攻撃に対する闘いを中心とした当面する闘いの方針を伝達・確認した。

### 二〇〇〇年春闘の中間総括について

二〇〇〇年春闘は、資本による徹底した人件費抑制攻撃が全面的に展開される中で闘われた。しかし、金属労協、造船重機労連、電機、自動車など、民間大手でも比較的業績が良いとされる企業でも軒並みベアゼロや五〇〇円程度という回答に止まった。とくに、NTTなどは、携帯電話の普及などにも見られるとおり日本でも有数の企業でありながら、ベアゼロという回答だ。しかも、組合は九七%でスト権を確立していながら全く抵抗を示すことなく受け入れている状況だ。

結局、経営側は、業績が良からうがなんでも総額人件費を抑制するためには様々な攻撃を仕掛けてくるのであり、これを打ち破るのは労働組合の闘い以外ないということがより鮮明になったということだ。

しかし連合は、全面的に屈伏し、経営側と一体となってベアゼロという戦後初めての事態を労働者に押しつけるまでにいたっ

ている。とくに、連合傘下の八〇〇を超える組合が、今春闘で要求すら出されていないなど、今後連合内からも大きな矛盾が吹き出すことは避けられない状況だ。

### 四つの総括視点

こうした状況の中で闘われた動労千葉の二〇〇〇年春闘の中間総括の第一は、貨物の「ベアゼロ」回答打破、定年延長と六五歳まで働ける労働条件の確立を軸にして「組織拡大春闘」と位置付け、全体が総屈伏する状況の中で二波のストライキに立ち上がり、今現在も闘いを継続しているということだ。

第二は、「シニア制度」や貨物のベアゼロというこれまでにない新しい事態に対して、「シニア制度」学習会やストライキ総決起集会の圧倒的成功を踏まえて動労千葉全体として意思統一を行い団結を強化することができたということだ。

第三は、二月の春闘学習・交流集会の開催や二波のストライキを闘うなど、闘う労働運動の全国ネットワークの発展、労働組合のあり方を問う闘いとして二〇〇〇年春闘に立ち上がり、檄を発したという意味は決定的に重要だったということだ。

第四は、「シニア制度」の裏切りや「平和共存打破」に見られるようにJR総連革マルの危機が一層進行する中で、動労千葉の組織強化―拡大に向けた闘

いが大きく前進したということ、何よりも大きな成果だ。

### いつでもストに 立ち上がれる 万全の体制を!

以上の総括点に立って動労千葉は、当面、次のとおり闘うこととする。

一 「シニア協定」について  
(1)「シニア協定」は、高齢者のみならず今後全ての労働者の権利・雇用・賃金・労働条件を根幹から揺るがす重大な問題であるという点から、動労千葉としては、「シニア協定」は妥結しないこととする。

当面、①定年延長一六五歳まで働ける労働条件の確立、②業務の全面的委託阻止、③JR体制打倒、JR総連革マル解体―組織拡大に向けて組織の総力を挙げて闘いに突入することとする。

(2)「シニア協定」に基づく再雇用をめくって、今後、動労千葉に対する差別・選別、支配介入等が行われた場合は、いついかなる時でもストライキに立ち上がる万全の体制を構築することとする。

### 二 国鉄闘争闘争について

(1)一〇四七名闘争の重大局面に踏まえ、二〇〇〇年夏季物販が決定的に重要になっていることから、動労千葉の総力を挙げて取り組みを強化することとする。

動労千葉物販担当者会議  
4月26日(水) 18時から

(2)運転保安確立に向け、東日本・貨物とも当面一二月ダイ改を見据え、営団や青梅線での脱線事故等重大事故が続発していることから、調査・交渉の取り組みを強化する。

動労千葉貨物協議会総会  
4月11日(火) 18時から

三 反戦・政治闘争について  
(1)沖縄現地派遣闘争について

期間 5月13日～15日  
\*各支部代表派遣を募る  
\*四月賃金で派遣カンパを取り組む

(2)沖縄新基地と有事立法、憲法改善を許さない全国集会  
とき 4月8日(土)  
13時30分から

ところ 東京・社会文化会館

### 四 その他の取り組み

(1)動労千葉ポウリング大会  
とき 4月22日(土)  
11時から

ところ 千葉・アサヒポウル

(2)動労総連合第14回中央委員会  
とき 4月19日(水)  
13時から

ところ 千葉市民会館  
傍聴に参加しよう